

自治体あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
URL http://www.jaichi.jp
メール info@jaichi.jp

2013.9.25
No.1078

発行責任者 柳進 定価 10円
組合員の購読料は組合費の中に含まれています

第18回あいち機関紙・宣伝学校

とき 10月25日(金)~26日(土)
ところ 金山・労働会館ほか
※詳しくは県本部までお問い合わせください

自身が運営する「雁ぶらサロン」前で笑顔の吉川さん(左端)



歴史ある雁道商店街

名古屋市の瑞穂区北西部に位置する雁道(がんみち)商店街。古くから栄え、地域住民に親しまれてきた歴史ある商店街です。しかし近年は、後継者問題や不景気のあまりを受けて店の数はピーク時の半分以下に。そんな中、この商店街を「何とか活性化させたい」と空き店舗を使った事業に奮闘する吉川富士子さんとその商店街の様子を取り材しました。

**店舗数は減少
生活に厳しさを感じる**

商店街でおよそ50年間、夫婦で理容室「栄龍」を経営してきた女性は、「昔はこの商店街も本当に活気があって、いつも賑わっていました。『会社帰りに一

杯』という人も多く、百数十軒のお店がずらりと並んでいたんです」と当時の様子を語ってくれます。しかし現在商店街の店舗数はおよそ40まで減少。「景気が悪くなり商店街に足を向ける人は少なくなりました。店の跡継ぎも

いらっしゃるんです。うちのようないかないし、利益が下がって大変です。うちのようないかないし、利益が下がります」とその実情を語っています。

商店街に明るい兆し

でも、そんな中でも「雁

が降りる店も。今のがアベノミクスで景気は良くなると想われるけれど、こんな地域の商店街では全然実感がない。消費税増税なんてされたら、カットの値段を上げるわけにもいかないし、利益が下がつて大変です。うちのようないかないし、利益が下がります」と吉川さん。それ

が見られるといいます。道商店街で、空き店舗を使つた事業を営んでいる吉川さんのおかげでメディアに取り上げられたり、新しく若い人がお店を始めたりと、商店街の未来に希望が持てるようになつてきています」と、近年の商店街の状況に明るい兆しが見られます。

「初めて雁道商店街に来た時、人の少なさとシャッターの降りたお店の多さに驚きました」と第一印象を語る吉川富士子さん。2004年に書道や料理などを、日替わりで地域の人々が楽しめる企画を運

ました。「お店に入りやすいやう商品やサービスを100円で提供する“100円商店街”イベントを2ヶ月に1度開催しています。はじめは10店舗ほどのみでしたが、今は雁道以外のお店も含め30店

に奮闘する吉川さんです。行政の果たす役割は大きといといいます。「県の“商店街地域新事業発掘事業”と、市の“商店街空き店舗活用事業”的補助金で「雁ぶらサロン」とショップ」の運営が始まりました。でも終了してしまいます。金銭面だけでなく、その後も補助金 자체は3年ほどで

みんなの夢を叶えた力

當するための貸し部屋となる「雁ぶらサロン」と、商店街や市外からも集まる様々な手作り品を展示し販売する「雁ぶらショッピング」をオープンし、今年で10年目を迎えます。

「ここに集まるみんなの夢が叶う商店街にしたい。商店街には地域のみんなをつなぐ、大きな力があるんです」と吉川さん。それまでは顔見知り程度だった商店主さんや地域の人たちとの関係も、サロンやショップを通して強まります。

地域の活性化へ行政の役割に期待

そんな商店街の活性化に奮闘する吉川さんですが、地域が元気になって景気回復につながるために、行政の果たす役割は大きといといいます。「県の“商店街地域新事業発掘事業”と、市の“商店街空き店舗活用事業”的補助金で「雁ぶらサロン」とショップ」の運営を取り調査など、継続してきました。金銭面だけでなく、その後も補助金 자체は3年ほどで

終了してしまいます。金銭面だけではなく、その後も聞き取り調査など、継続したフォローを行つていただくとありがたいです。みんなの懐が温まって、商店街の日々の売り上げ向上につながる施策と援助が必要だと思います」と、期待を寄せてもらいました。

商店街で50年続く理容室「栄龍」の前で

労働者が未来に希望の持てる勧告を

愛知県人事委員会要請

9月12日、愛労連・愛知公務共闘・自治労連愛知県本部は愛知県人事

委員会に対して「2013年賃金改善に関する要請書」を提出。政府による自治体への給与削減の押しつけに反対するとともに、初任給引き上げや最低賃金1000円以上を、など若年層、非正規職員について待遇改善を求める要請を行いました。

はじめに愛労連・構松議長より、「今、様々な場所で賃金は上昇傾向にある。人事委員会はそれらを反

映した勧告を行い、その勧告が実行されるよう、その役割を果たしていただきたい」とあります。続いて県本部・伊藤書記次長より「自治体・公務・公共労働者が全体の奉仕者として誇りと尊厳を持って職務に専念できるよう、安心なく

暮らしの実現へ月例給及び一時金を引き上げる勧告を行うこと」など13項目について公務員の賃金・労働条件の改善を求めました。

要請は最後に「労働者が未来に希望の持てる効果を」と人事委員会を激励し、終了しました。



自治労連 セット共済 安くて安心
掛金 1790円/月 病気入院 5000円/1日



集会後に福井市内をデモ行進する愛知からの参加者

集会後は福井市内をデモ行進し、「再稼働反対」スピーチで強い思いを訴えました。

また、「もう2度とこんな事故を起こしてはいけない」「子どもの未来のために絶対に原発の再稼働を阻止しよう」と全国から集まつた参加者が1分間スピーちで強い思いを訴えました。

集会後は福井市内をデモ行進し、「再稼働反対」「自然エネルギーを使おう」と元気良く呼びかけました。

9.15もう動かすな原発!福井集会

9月15日、福井県にある関西電力の大飯原発4号機が定期検査のため、その稼働をストップし、国内で稼働する原発はゼロになりました。これにともない、全国各地で「再稼働反対」を求める集会やデモが開催され、福井市中央公園では「9・15もう動かすな原発!福井集会」が行われました。

小雨が降る悪天候の中集まつた800人を前に中島哲演・実行委員長は、「再稼働に反対する国民世論は、多数派を占めている。今こそ、もう動かすな、さよなら原発」の目的のもと手を取り合い、大きくながら合おう」と開会挨拶を行いました。

福島からの訴えでは、原発事故が起きたままで福島県で椎茸農場を経営していた秋山さんが、「17年間作ってきた椎茸も、もうあの地では作ることはできない。二度とこんなことが起こらないようにするために何をすべきか。原発の再稼働阻止、そうではなく呼びかけ。大きな「そうだ!」の声と賛同の拍手が会場に響きました。

また、「もう2度とこんな事故を起こしてはいけない」「子どもの未来のために絶対に原発の再稼働を阻止しよう」と全国から集まつた参加者が1分間スピーちで強い思いを訴えました。

集会後は福井市内をデモ行進し、「再稼働反対」「自然エネルギーを使おう」と元気良く呼びかけました。



日頃のモヤモヤがズッキリ☆

全労連東海北信ブロックサマーセミナー

全労連東海北陸ブロック青年部主催のサマーセミナー

ミナーが9月14日～16日にかけて岐阜・長良川スポーツプラザで開催され、合計111人、自治労連愛知県本部からも14人が参加しました。

「サマセミ」は、「これでスッキリモヤモヤをキラキラに☆」をテーマに行われ、初日の全体会「夏の

県本部保育所部会は9月14日、毎年恒例の秋の学習会を開催しました。講師に佛教大学の杉山隆一教授を迎えて「認定こども園」とは」と題して行われた学習会には、県内から60人以上が参加。子ども・子育て

新制度と認定こども園をめぐる動向と問題点について学びました。杉山氏は「短時間と長時間の保育が混合すれば、保育内容に一貫性が保てなくなる」など新制度と認定こども園の問題点について

参加した保育士からは「あらためて新制度の問題点が理解できた」、「学んだことを持ち帰つて、みんなに伝えたい」など多くの感想が寄せられました。

した。

て指摘。また、「国民の願う保育は待機児童解消や保育の質の向上だが、国は新制度で保育の市場化をすすめ、保育の平等性などを考えて考えていないとし、「市町村が責任を持つて保護者の願いに応えた質の高い保育を提供するため、国に対してその本来の役割を果たさせることが大事である」と訴えました。

した。

した。</